

福山市次期ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会（以下「委員会」という。）は、福山市（以下「市」という。）が2019年（令和元年）10月2日に公告した「福山市次期ごみ処理施設整備・運営事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、基礎審査を実施後、提案書及び入札価格について審査を行った。

市では、委員会における審査の結果を受けて、落札者を決定したので、審査の結果を審査講評として公表する。

2020年（令和2年）6月15日

福山市長 枝廣 直幹

福山市次期ごみ処理施設整備・運営事業

審 査 講 評

2020年（令和2年）6月

福山市次期ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会

目 次

1. 事業概要.....	1
(1) 事業名称.....	1
(2) 事業場所.....	1
(3) 事業目的.....	1
(4) 対象となる公共施設等の種類.....	1
(5) 事業手法.....	2
(6) 事業期間.....	2
(7) 事業範囲.....	2
2. 審査及び選定方法.....	3
(1) 入札方法.....	3
(2) 事業者選定までの経過.....	3
(3) 委員会の設置.....	4
(4) 委員会の開催経過.....	4
(5) 落札者決定の手順.....	5
(6) 審査及び選定の手順.....	5
3. 審査結果の概要.....	8
(1) 資格審査.....	8
(2) 基礎審査.....	8
(3) 技術評価.....	9
(4) 評価値の算出.....	10
(5) 事業者の選定.....	10
4. 審査講評.....	11
5. 総評.....	13

1.事業概要

(1) 事業名称

福山市次期ごみ処理施設整備・運営事業

(2) 事業場所

広島県福山市箕沖町地内

(3) 事業目的

本事業は、福山市（以下「市」という。）、府中市及び神石高原町において排出される燃やせるごみ等及び災害廃棄物の焼却処理を行う焼却施設並びに市において排出される燃やせる粗大ごみ、蛍光灯、使用済乾電池及びライター類の処理を行う粗大ごみ処理施設の設計・施工・運営を行うものである。本施設は、2024年（令和6年）8月に供用が開始され、約20年間にわたって運営が行われることを予定している。

DBO方式（Design:設計，Build:施工，Operate:運営）により本施設を整備し、同施設の完成後、約20年間にわたって運営することで、本施設の有効かつ効率的な整備と長期間にわたる良好な運営を図り、循環型社会の形成を推進することを目的とする。

(4) 対象となる公共施設等の種類

対象となる公共施設等の種類は、次のとおりである。

施設の種類	一般廃棄物処理施設（焼却施設・粗大ごみ処理施設）
焼却施設	1) 施設規模 : 600t/24h (200t/24h×3 炉) 2) 処理方式 : ストーカ式焼却方式 3) 処理対象物 : 燃やせるごみ、粗大ごみ処理施設の破砕物、可燃性粗大ごみの破砕物、資源化施設の可燃残渣、助燃剤等（脱水し渣・脱水汚泥・スカム等）、小動物の死がい及び災害廃棄物
粗大ごみ処理施設・ストックヤード	1) 施設規模 : 16t/5h（蛍光灯、使用済乾電池及びライター類は含まない。） 2) 処理方式 燃やせる粗大ごみ：破砕（破砕物は、焼却施設で処理） 蛍光灯、使用済乾電池及びライター類 : 破袋（破袋物は、保管又は場内処理） 3) 処理対象物 : 燃やせる粗大ごみ、蛍光灯、使用済乾電池及びライター類
関連施設	管理棟、計量棟、洗車場 等

(5) 事業手法

本事業はDBO方式で実施する。

民間事業者は、単独又は共同企業体を設立し、本施設の設計・施工（以下「設計・施工業務」という。）を行う。

また、民間事業者は、特別目的会社を設立し、約20年間にわたって、本施設の運転・維持管理・点検・補修等の業務（以下「運營業務」という。）を行う。

さらに、残渣運搬事業者及び残渣資源化事業者は、約20年間にわたって、それぞれ残渣の運搬及び資源化を行う。

(6) 事業期間

本施設の設計・施工期間：特定事業契約締結から2024年（令和6年）7月31日

本施設の運営期間：2024年（令和6年）8月1日から2044年（令和26年）3月31日

残渣の運搬期間：2024年（令和6年）8月1日から2044年（令和26年）3月31日

残渣の資源化期間：2024年（令和6年）8月1日から2044年（令和26年）3月31日

(7) 事業範囲

1) 設計・施工業務

2) 運營業務

ア) 受入管理業務

イ) 運転管理業務

ウ) 維持管理業務

エ) 環境管理業務

オ) 情報管理業務

カ) 関連業務

キ) 事業終了時の取扱いについての協議

3) 残渣運搬業務

4) 残渣資源化業務

2. 審査及び選定方法

(1) 入札方法

入札方法は、地方自治法施行令第167条の10の2の規定に基づく総合評価一般競争入札を採用した。

(2) 事業者選定までの経過

入札公告から事業者選定までの経過等は、次のとおりである。

日 付	内 容
2019年（令和元年）6月10日（月）	実施方針等の公表 見積提案募集要項の公表
2019年（令和元年）9月24日（火）	特定事業の選定，公表
2019年（令和元年）10月2日（水）	入札公告 募集要項（第一部）の公表
2019年（令和元年）10月11日（金）	募集要項（第一部）に関する質問の提出期限
2019年（令和元年）10月23日（水）	募集要項（第一部）に関する質疑回答
2019年（令和元年）10月29日（火）	資格審査申請書類の受付締切
2019年（令和元年）11月12日（火）	資格審査結果の通知 募集要項（第二部）の送付
2019年（令和元年）11月19日（火）	募集要項（第二部）に関する質問の提出期限
2019年（令和元年）12月3日（火）	募集要項（第二部）に関する質疑回答
2019年（令和元年）12月10日（火）	技術対話の実施
2020年（令和2年）1月31日（金）	提案書類の提出期限
2020年（令和2年）1月30日（木） から同月31日（金）まで	入札書及び入札内訳書の受付期間
2020年（令和2年）2月上旬～4月下旬	提案内容の明瞭化
2020年（令和2年）4月下旬～6月上旬	基礎審査
2020年（令和2年）5月27日（水）	開札（契約担当にて開札後，評価値の算出まで非公表）
2020年（令和2年）6月3日（水）	技術評価の実施 評価値の算出 事業者の選定

(3) 委員会の設置

審査は、公正かつ公平に事業者を選定するために設置した福山市次期ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会（以下「委員会」という。）において実施した。

区分	氏名	所属・役職
委員長	西嶋 渉	広島大学環境安全センター 教授
副委員長	堤 行彦	福山市立大学都市経営学部 教授
委員	今岡 務	広島工業大学環境学部 教授 (2019年度〔令和元年度〕3月31日まで) 広島工業大学 名誉教授 (2020年度〔令和2年度〕4月1日から)
	清水 直樹	福山市経済環境局環境部長
	三谷 正道	福山市建設局建設管理部長
	市川 清登	福山市建設局土木部長 (2019年度〔令和元年度〕3月31日まで) 福山市建設局都市部長 (2020年度〔令和2年度〕4月1日から)
	神田 量三	福山市建設局都市部長 (2019年度〔令和元年度〕3月31日まで) 福山市建設局土木部長 (2020年度〔令和2年度〕4月1日から)
	渡邊 桂司	福山市建設局建築部長

(4) 委員会の開催経過

委員会の開催経過は、次のとおりである。

日付	内容
2019年（令和元年） 5月23日（木）	第1回委員会 事業者選定手順等，実施方針（案）及び要求水準書（素案）
2019年（令和元年） 7月31日（水）	第2回委員会 評価値の算出方法及び評価項目等（案），落札者決定基準（案）， 入札説明書（案）
2019年（令和元年） 8月21日（水）	第3回委員会 入札説明書（案），落札者決定基準（案），要求水準書（案），特 定事業の選定（案），本事業に係る契約書等（案）
2020年（令和2年） 3月19日（木）	第4回委員会 技術提案書の明瞭化事項（案），技術提案書の事前評価について， ヒアリング及び第5回事業者選定委員会の流れ，審査講評（素案）
2020年（令和2年） 6月3日（水）	第5回委員会 最終審査対象者によるプレゼンテーション，最終審査対象者へ のヒアリング，事業者の選定，審査講評（案）

(5) 落札者決定の手順

入札公告から落札者決定までのフローを図1に示す。

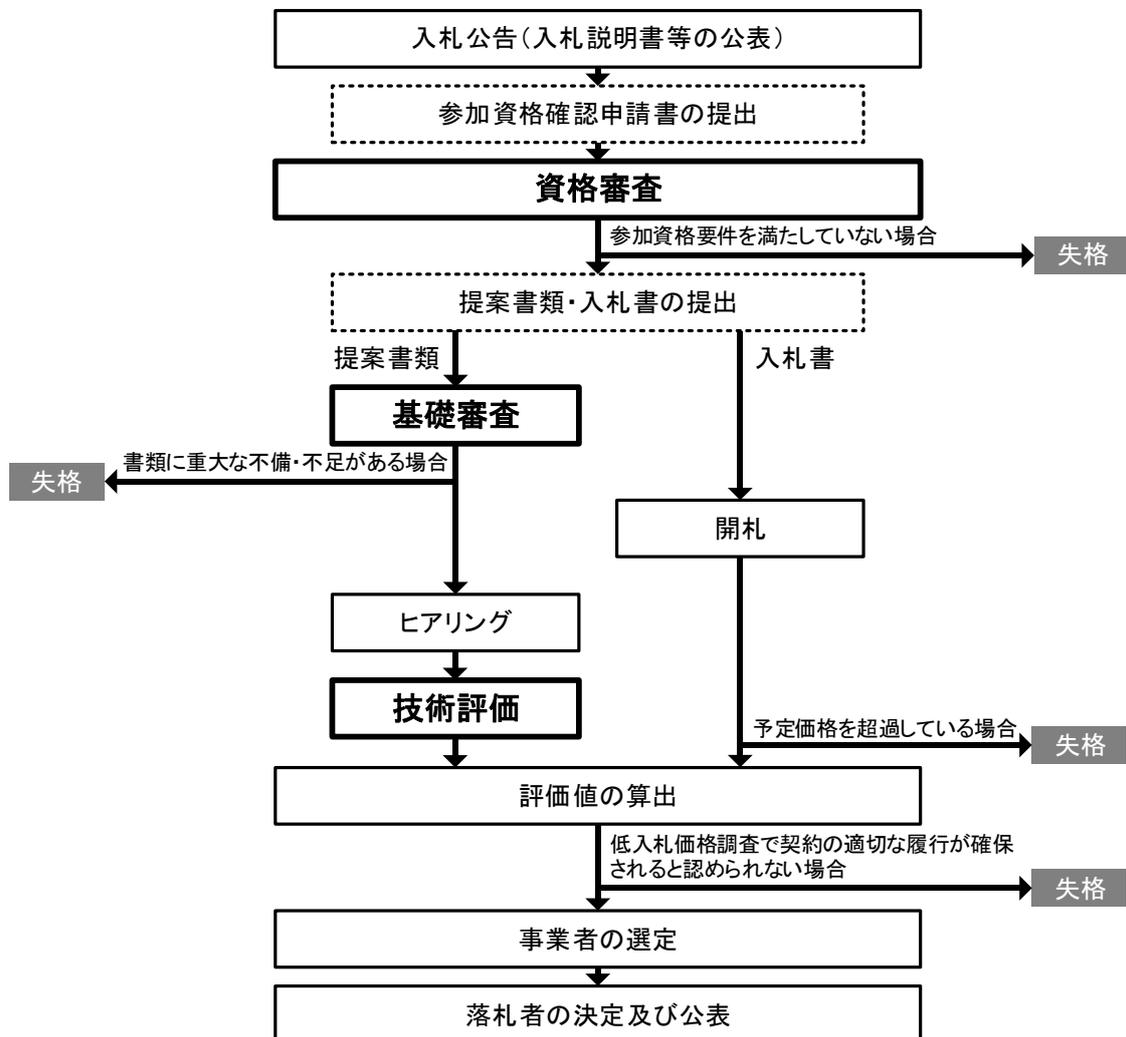


図1 入札公告から落札者決定までのフロー

(6) 審査及び選定の手順

1) 資格審査

提出された参加資格確認申請書類について、入札説明書に記載した応募者の入札参加資格に掲げる要件を満たしていることを確認した。

2) 基礎審査

提出された提案書類について、次の視点から確認を行った。

ア) 提案書類についての審査

- ・必要な書類がそろっていること
- ・書類間で整合していること

イ) 提案内容と要求水準の適合性等の確認

- ・全ての業務について、要求水準を満たした提案がなされていること
- ・全ての業務の要求水準及び契約条件を遵守する約束をしていること

3) 技術評価

基礎審査を通過した最終審査対象者を対象に、技術提案内容の評価を行った。なお、評価に当たっては、最終審査対象者へのヒアリングを実施した。

最終審査対象者の技術評価については、公平、透明性の観点から企業グループ名及び関連する企業名は一切開示せず、市が指定した名称で分類した。

ア) 評価項目と配点

技術評価に関する評価項目及び配点は、次表のとおりである。

評価項目		配点		
1.市民の生活を守る安全・安心で安定した稼働ができる施設	①設備計画	3	18	
	②運営計画	3		
	③災害等への対応	3		
	④施設計画・施工計画	④-1施設配置・動線計画		3
		④-2地盤沈下対策		3
⑤事業の安定化等に関する方策	3			
2.環境負荷を低減する環境にやさしい施設	①周辺環境への配慮	3	9	
	②温室効果ガスの削減	3		
	③施設の外観デザイン	3		
3.エネルギーと資源の有効活用を積極的に推進する施設	①エネルギーの有効活用	3	9	
	②資源の有効活用	3		
	③焼却灰及び飛灰の資源化の継続性	3		
4.地域に貢献し、親しまれる施設	①環境学習・情報発信	3	18	
	②全ての見学者にやさしい施設	3		
	③周辺地域への社会的貢献	3		
	④地域経済対策	④-1地元雇用		3
		④-2地元企業の活用		3
④-3地元からの用役・資材調達		3		
5.経済性に優れた施設	①ライフサイクルコストの低減	9	18	
	②施設の長寿命化	9		
6.その他	その他特筆すべき優良提案	①設計・施工に関すること	4	8
		②運営に関すること	4	
合計			80	

イ) 技術評価における点数化方法

技術提案内容について、前項の評価項目ごとに、次表の評価基準及び点数化方法に基づき点数化を行った。

	評価基準	点数化方法
A	当該評価項目において特に優れた提案となっている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	当該評価項目において優れた提案となっている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	当該評価項目において要求水準を満たす程度の提案である	配点×0.00

また、技術評価点は、次式により算出した。

$$\text{技術評価点} = \text{標準点 (100点)} + \text{加算点 (80点満点)}$$

4) 評価値の算出

契約担当にて開札後、保管していた入札書について、技術評価後に入札価格が予定価格の範囲内であることの確認を行った上で、次式により評価値を算出し、評価値が最も高い者を選定した。

$$\begin{aligned} \text{評価値} &= \text{技術評価点} \div \text{入札価格} \times 1,000,000,000 \text{ (小数第4位以下切捨て)} \\ \text{技術評価点} &= \text{標準点 (100点)} + \text{加算点 (80点満点)} \end{aligned}$$

3. 審査結果の概要

(1) 資格審査

2019年（令和元年）10月2日に入札公告を行い、2019年（令和元年）10月29日まで参加資格確認申請書を受け付けたところ、次のグループから申請があった。

入札説明書「応募者の入札参加資格」に示す参加資格要件について、事務局にて充足状況の確認を行った。

資格審査の結果、当該グループの入札参加資格を確認し、2019年（令和元年）11月12日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表1 参加資格確認申請書提出グループ

指定名称	白
代表企業	JFEエンジニアリング株式会社 中国支店
構成員 (代表企業を除く)	JFE環境サービス株式会社 メタウォーター株式会社 中国営業部
協力会社	熊谷組・三島産業・富士建設共同企業体 ツネイシカムテックス陸運株式会社 ツネイシカムテックス株式会社

表2 資格審査結果

	白
参加資格の有無	あり

(2) 基礎審査

2020年（令和2年）1月31日までに入札参加資格を有するグループより提案書類が提出された。

提出された提案書類について基礎審査項目に沿って、事務局にて基礎審査を行った。提案書類を提出したグループについて、市が要求する要求水準書を満足していること等を確認した。

表3 基礎審査結果

		白
提案書類	必要な書類がそろっていること	○
	書類間で整合していること	○
提案と要求水準 の適合性等	全ての業務について、要求水準を満たした提案がなされていること	○
	全ての業務の要求水準及び契約条件を遵守する約束をしていること	○

(3) 技術評価

加算点は表4, 技術評価点は表5に示すとおりである。

表4 加算点

評価項目		配点	白	
1.市民の生活を守る安全・安心で安定した稼働ができる施設	①設備計画	3	2.44	
	②運営計画	3	2.34	
	③災害等への対応	3	1.88	
	④施設計画・施工計画	④-1施設配置・動線計画	3	2.44
		④-2地盤沈下対策	3	2.16
	⑤事業の安定化等に関する方策	3	2.16	
	小計	18	13.42	
2.環境負荷を低減する環境にやさしい施設	①周辺環境への配慮	3	1.88	
	②温室効果ガスの削減	3	2.53	
	③施設の外観デザイン	3	1.78	
	小計	9	6.19	
3.エネルギーと資源の有効活用を積極的に推進する施設	①エネルギーの有効活用	3	2.53	
	②資源の有効活用	3	2.06	
	③焼却灰及び飛灰の資源化の継続性	3	2.16	
	小計	9	6.75	
4.地域に貢献し、親しまれる施設	①環境学習・情報発信	3	1.78	
	②全ての見学者にやさしい施設	3	2.06	
	③周辺地域への社会的貢献	3	2.25	
	④地域経済対策	④-1地元雇用	3	2.34
		④-2地元企業の活用	3	2.44
		④-3地元からの用役・資材調達	3	2.44
	小計	18	13.31	
5.経済性に優れた施設	①ライフサイクルコストの低減	9	7.03	
	②施設の長寿命化	9	6.75	
	小計	18	13.78	
6.その他	その他特筆すべき優良提案	3 設計・施工に関すること	4	3.00
		②運営に関すること	4	3.13
	小計	8	6.13	
合計		80	59.58	

表5 技術評価点

	技術評価点		
	標準点	加算点	合計
白	100.00	59.58	159.58

(4) 評価値の算出

委員会は、入札書に記載された入札価格について、予定価格の範囲内であることの確認を行った上で評価値を算出した。

評価値は、表6に示すとおりである。

表6 評価値

	技術評価点			入札価格 (消費税及び地方消費税を除く)	評価値
	標準点	加算点	合計		
白	100.00	59.58	159.58	71,250,000,000円	2.239

(5) 事業者の選定

委員会は、落札者決定基準に基づいて公平かつ専門的な知見に基づいた審査を行い、白(JFEエンジニアリング株式会社 中国支店グループ)を選定した。

なお、提案は、全ての評価項目について要求水準を上回る高いレベルであった。

4. 審査講評

審査講評は、表7に示すとおりである。

表 7 (1) 審査講評

評価項目	講評
1. 市民の生活を守る安全・安心で 安定した稼働ができる施設	
①設備計画	・実績と数値根拠に基づく安定的かつ長期的な活用の整備方針を複数提案しており、いずれも実効性が高い点を評価した。
②運営計画	・スムーズな受け入れと繁忙期対応のための方策が十分とられている点を評価した。 ・事業終了に向けた引継ぎと終了後のケアについて十分考えられている点を評価した。 ・トラブル事例とその対策を多く提案している点を評価した。
③災害等への対応	・災害時におけるプラント安全停止システムや自主防災組織の構築等の対策を提案している点を評価した。
④施設計画・ 施工計画	④-1施設配置・動線計画 ・見学者と車両の動線の分離による安全確保と、待機スペース等ゆとりのある配置計画により臨機の対応が可能な施設配置となっている点を評価した。
	④-2地盤沈下対策 ・盛土時期の前倒し等、作業工程の工夫と、沈下後の迅速な対応が可能な点を評価した。
⑤事業の安定化等に関する方策	・事業リスクを細かく分析し、事案ごとに予防策と顕在化時の拡大防止策の担当主体を明確にした上で整理している点を評価した。
2. 環境負荷を低減する環境にやさしい施設	
①周辺環境への配慮	・工事期間中の環境への配慮を評価した。 ・施設稼働後の優れた対応を準備している点を評価した。
②温室効果ガスの削減	・温室効果ガス削減に対する創意工夫を多く提案している点を評価した。
③施設の外観デザイン	・配色とデザインが環境とマッチし、清潔感がある点を評価した。
3. エネルギーと資源の有効活用を積極的に推進する施設	
①エネルギーの有効活用	・実績に基づき施策ごとの具体的な目標数値を提示しており、信頼性が高い点を評価した。
②資源の有効活用	・薬品使用量の大幅な削減を提案している点を評価した。
③焼却灰及び飛灰の資源化の継続性	・残渣資源化の継続に向けたバックアップ体制を構築している点を評価した。

表 7 (2) 審査講評

評価項目		講評
4. 地域に貢献し、親しまれる施設		
①環境学習・情報発信		・AR技術（拡張現実）の導入や見学プログラムの品質向上策を提案している点を評価した。
②全ての見学者にやさしい施設		・多様な見学者に対する配慮を安全面，利便性の両面から具体的に提案している点を評価した。
③周辺地域への社会的貢献		・様々な形での地域社会との連携について提案している点を評価した。
④地域経済対策	④-1地元雇用	・地元雇用人数が明示され，雇用状況の確認も可能な点を評価した。
	④-2地元企業の活用	・地元企業への発注を詳細に検討している点を評価した。
	④-3地元からの用役・資材調達	・地元企業への発注を詳細に検討し，発注状況の確認も可能な点を評価した。
5. 経済性に優れた施設		
①ライフサイクルコストの低減		・ライフサイクルコストの低減に向けた様々な対策を提案している点を評価した。
②施設の長寿命化		・独自の維持管理計画やその他ハード・ソフト対策を提案している点を評価した。
6. その他		
その他特筆すべき優良提案	①設計・施工に関すること	・工期と試運転を遅滞なく行う工夫について提案している点を評価した。
	②運営に関すること	・安定燃焼を確実にする燃焼制御等による安定的な運営計画を提案している点を評価した。

5.総 評

本事業は、福山市次期ごみ処理施設整備基本構想及び基本計画に基づき、老朽化した3つの焼却施設（西部清掃工場、新市クリーンセンター、深品クリーンセンター）のほか、福山市ごみ固形燃料（RDF）工場を統合し、新たなごみ処理施設として整備するものである。

また、本事業では、DBO方式を採用しており、事業期間を通じた財政負担の低減、民間事業者の運営ノウハウによるごみ処理の安定性や効率性等の向上などを期待するものである。

入札に参加したグループは、1グループであったが、要求水準を上回る高いレベルであった。

委員会では、落札者決定基準に基づき技術提案内容やヒアリング内容を踏まえた技術評価を行い、公平かつ厳正に審査を行った結果、JFEエンジニアリング株式会社 中国支店グループ（指定名称：白）を選定した。

JFEエンジニアリング株式会社 中国支店グループの提案は、市が掲げた施設整備の基本方針である「市民の生活を守る安全・安心で 安定した稼働ができる施設」、「環境負荷を低減する環境にやさしい施設」、「エネルギーと資源の有効活用を積極的に推進する施設」、「地域に貢献し、親しまれる施設」、「経済性に優れた施設」を十分に実現させることが可能であると判断した。特に評価が高かった項目は、『設備計画』、『施設配置・動線計画』、『温室効果ガスの削減』、『エネルギーの有効活用』、『地域経済対策』であった。

JFEエンジニアリング株式会社 中国支店グループにおいては、本事業を実施するにあたり、要求水準書及び技術提案内容を誠実かつ確実に履行するとともに、本事業の重要性に鑑み、特に次の事項への対応に努められることを願います。

- (1) 提案された内容の具体的な設計・施工・運営にあたっては、市の意向も踏まえた上で実施すること。
- (2) 事業期間全体を通じ、環境負荷の低減に努めること。
- (3) 運営期間を通じ、地盤沈下対策、提案の発電効率の維持及び焼却残渣の資源化の継続に努めること。
- (4) 提案内容にある、地元発注額の増加、地元雇用について、さらなる努力を行うこと。

今後、本事業を通じて、市とJFEエンジニアリング株式会社 中国支店グループが良きパートナーとなり、地元を含めた信頼関係を構築するとともに、本事業が計画的かつ円滑に進むよう対応されることを期待する。